

KAWANISHI GREEN FESTIVAL(なつまつり)アンケート要約

1. 全体評価・肯定的意見

○規模・賑わいへの高評価

他県・町外からの集客や、賑わい・活気が生まれている点を高く評価する声。

若者が集まるイベントや地域活性化、将来的な人口流出防止・関係人口増加への期待。

「町外の家族・友人が喜んで帰省した」「川西町でこんなイベントができるのが凄い」という感動の声。

○ゲスト・企画への評価

2年連続でのLDH(EXILE等)メンバの参加、豪華なゲスト出演に対する大感激・感謝。

子ども向けダンスコンテストやダンスワークショップなどの参加型企画への高評価。

伝統芸能(黒獅子舞等)の披露に対する高い満足感。

○運営・スタッフ対応

天候に恵まれたことや、スタッフ・関係者の尽力・丁寧な対応への感謝。

フレンドリプラザのトイレ解放や熱中症対策・休憩利用への高評価。

2. ターゲット層・イベント内容に関する意見(世代間のギャップ)

○高齢層・ファミリー層の置いてきぼり感

若者や特定のファン層に寄った内容(ダンス・DJ等)に対し、「高齢者や小さい子どもが楽しめない」「盛り上がっているのは一部だけ」という不満。

地域に根ざした従来の「川西夏祭り」や、全世代・老若男女が楽しめる催し(歌・お笑い・モノマネ等)を求める声。

KAWANISHI GREEN FESTIVALという名称や横文字文化への違和感。

○伝統芸能・地域色へのご要望

地元の伝統文化(獅子舞や商宮律など)の出演枠・回数を増やし、もっと注目されるタイムスケジュールにしてほしいという要望。

盆踊りや川西音頭、町民参加型の企画(昔の花笠パレードのような形式)を望む声。

○花火大会に対するご意見

芸能人・ダンスよりも花火に予算と時間を割いてほしいという意見が多数。

「花火の打ち上げ時間が短い」「演出が普通になった」「昔のような迫力や感動が薄れた」という指摘。

音楽フェスと花火大会は切り離して開催してほしいという提案。

3. 予算・行政運営・目的(税金の使い道)

○著名人・ゲスト呼出しの費用対効果

芸能人に多額の税金・ギャラを使うことへの疑問や批判(「一過性のイベントではなく町民の福祉や生活還元に使すべき」)。

イベントの詳細な収支決済(決算)を町報等で開示してほしいという要望。

「なぜ川西町にLDHが来るのか」「町長・役場の趣味や方針なのか」等の背景・経緯の説明を求める声。

○協賛金・寄付金の取り扱い

協賛金の募集・お知らせの時期が遅いという指摘。

「寄付金(VIP席)で座る席を限定・格差化するのは不快」という意見。

フェスティバル開始前に町内店舗や役場に募金箱を設置してほしいという提案。

4. 広報・宣伝・情報発信に関するご要望

○周知不足・情報収集の難しさ

イベント詳細、ダンスワークショップ、ダンスコンテストなどの事前告知が届いておらず、「当日に知った」「後で知った」という声。

役場 HP の更新停滞(「開催 12 日前から更新されなかった」)や、公式 LINE・SNS での発信タイミングの遅さ。
子ども向け・学校関係の告知は、ホームページだけでなく学校でのチラシ配布を徹底してほしいという強い要望。

○町外・広報発信の工夫

SNS 等の発信を直前だけでなくもっと早期から行うべき。

地域おこし協力隊や町の関係者をもっと巻き込んだ PR 活動を求める声。

撮影禁止ルールの事前告知不足による現場での混乱・不快感。

5. 会場環境・設備・安全面(飲食・喫煙・観覧)

○飲食ブースと休憩スペース(椅子・テーブル)

飲食ブースにテーブルはあるが「椅子」がなく、高齢者や赤ちゃん連れが困っていた(事前案内で椅子の持参を促すか、椅子を設置してほしい)。

日よけ用のテント設置、大画面スクリーン(大型モニター)の増設要望。

地元出店や露店の価格の高さ(子供向けくじ等)、一部店舗の接客マナー・衛生管理(素手で氷を扱う、酔って接客など)への改善要望。

○喫煙所の位置問題

通路やトイレ前、役場と農協を結ぶ道路脇に喫煙所があり、受動喫煙(特に子どもや高齢者)のリスクが高い。配置場所の変更を強く要望。

○シートスペース・ステージ設置と安全確保

シートスペースが狭く混雑しており、暗くて足元が危険だった。

ステージ移動時(観覧エリアの移動)のアナウンス徹底や、ルールを守らない客への安全対策(柵や紐での段階的移動)。

ファンやカメラ撮影者と地元住民とのトラブル・マナー問題(地元客への気配り要望)。

6. その他・まちづくりへのご意見

○交通・アクセス

無料バスの運行に対する感謝。

町外からの来場者に対する宿泊施設や公共交通機関(電車等)の不足指摘。

○町づくり全般への提言

一部の意見だけでなく、幅広い世代の町民の声を取り入れた平等な町づくりを期待。

小松駅周辺の開発、特産品(米粉、紅大豆等)の魅力発信、子育て世代・若者が定住できる雇用・就労環境の整備。